

# 物流改革・リースを研修

## 農業経営改善研修会

農業会議と府農業経営者会議、府農業法人協会は12月17日、大阪市内で農業経営改善研修会を開催。講演①は「農業流通支援の取組」を株式会社農業流通支援の村山修代表が、講演②は「農業経営におけるリースの基礎知識」をJ A三井リース株式会社の中島集介氏が説明した。

(講演①要旨)  
 コンビニに飲料水が並ぶまでには13回積み下ろしされ、販売額の22%の運送コストがかかっている。運送業界も人手不足の中、この状態は効率が悪い。以前お台場のコンビニ各社の協力を得て共同配送の実証実験を行ったところ、21台走っていたトラックを5台に効率化できた。青果物は運送コストが33%で、地方から店に並ぶまでにJ A、市場、仲卸、加工所、小売などを経ている。経路地点が増えれば時間もかかり、鮮度も落ちる

ため、これを何とか出来ないかと畑からスーパーに直接配送する取り組みをしている。

物流を効率化して配送コストを下げるということは、青果物の生産原価を下げることもあり、今後の大阪での展開にも期待してほしい。

(講演②要旨)  
 「リースは割高」との先入観は間違いで、リース料金には本体価格、金利・手数料の他、償却資産税・軽自動車税、保険料も含まれている。納税や保険の事務手続きも全てリース会社が

行うため、事務の外部委託と考  
え、自分で行った場合の手間等も含めて、本当に割高なのか検討してもらいたい。

リースの対象となるのは農業に必要なあらゆる物件。一旦リース会社が買い取ることにな  
るが、購入先は日頃付き合いのある農機業者も選択可能で、リース期間も自由度は高い。現  
在はリース期間終了後に商品を  
購入することもできる。

レンタル、ローンに加えリースも農業経営の選択肢の一つとなり得るものだ。(田村)

## 経営者会議役員会・法人協会合

府農業経営者会議と府農業法人協会は昨年12月17日、1月14日の両日、大阪市内で役員会、会合を合同で開催。

議事では2月末に開催予定の第51回総会の開催方法・議事について協議した他、府農業経営者会議の50周年記念式典の開催方法等について話し合った。(田村)

## なにわ農業賞受賞者紹介65

### より消費者に近い生産者をめざす

和泉市 式森彦人さん

「ミカンの美味しさにこだわっています」と話すのは、平成23年に「なにわ農業賞」を受賞した式森彦人さん(66)。和泉市仏並町で柑橘類等約3畝を栽培する四季盛農園を営んでいる。

ミカン栽培は式森さんの祖父が始め、3代120年以上の歴史がある。なにわ農業賞の受賞後、積極的に品種を導入し、現在では9月下旬からの極早生温州にはじまり、年明けの貯蔵温州を主力品目に、中晩柑類、貯蔵



まだまだ意気軒昂な式森さん

レモン、5月の甘夏出荷まで、品種や貯蔵技術を活用して長期間の出荷を行っている。

減農薬・減化学肥料栽培にも取組み、環境にやさしい安全安心な農産物作りを実践しており、レモンは大阪府のエコ農産物の認証を受けている。

式森さんによると、ミカンは生育中にややストレスを与えることで一層味が良くなるそうで、灌水や施肥に関しても独自の工夫があるようだ。

近年、気候温暖化に伴い、夏期の高温により九州や四国といった西南暖地では、ミカンの品質低下が問題となっている。一方、当地のような山間地では、

標高がやや高いことから昼夜温度差が大きくなり、従来より糖度が上がり酸とのバランスの良  
い、いわゆるコクのある美味しいミカンに仕上がるようになってきたとのこと。

販路については、なにわ農業賞の受賞以前から取り組むミカンのオーナー制度のほか、現在は、近隣の直売所や宅配、スーパーや百貨店からの引き合いに対応している。また、式森さん自身対面販売が好きなこともあり、各種イベント等に向向いて販売することも。消費者にアピールできる機会も増え、商品の反応がダイレクトに返ってくるのが面白いそうだ。

地元和泉農業担い手塾の講師や新規就農者への技術指導のほか、平成27年には、農業月刊誌「現代農業」の1月号から9月号までミカン栽培技術記事を連載。さらに、平成30年に大阪府農の匠に認定され、令和2年には和泉市農業委員に任命されるなど、公私ともに多忙な日々を過ごす式森さんだが、「ミカン農家も面白い時代がきたと感じている」と笑顔で語る。(光崎)

